うるちの部

品種名	交配 母×父	育成地	草型	稈長 cm	芒 多、少	稲先色	穂発芽性	出穂期 月日	成熟期 月日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	玄米千粒重	食※2 5段階味	1回目の穂肥の幼穂長 mm	特性及び栽培上の注意	品種登録 年月日 育成者権存続期間
アキヒカリ	トヨニシキ×レイメイ	青森県農試藤坂支場	偏穂重	74	稀短	白	中	7.26	8.31	多肥	やや強	強	中	21.5	1	2	短強稈であるが過度に多肥すると登熟不良となるので注意。 紋枯病に注意。	—
てんたかく81 ※3	(てんたかく×コシヒカリ)×てんたかく4回戻し交配	富山農総技センター	偏穂数	69	少短	白	難	7.24	8.31	やや多肥	中	強	やや強	23.4	4	—	高温登熟・耐倒伏性は強い。 紋枯病に弱く過剰分げつ時は特に注意。粒の充実が良く、整粒比率が高い。	2023年4月6日より25年間
ミルキープリンセス	関東163号×鴻278	農研機構	中間	78	少短	白	やや難	7.27	9.3	普通	やや強	やや強	弱	21.0	4	5	いもち病抵抗性はやや弱いので、多肥栽培や常発地では注意する。	—
あきたこまち	コシヒカリ×奥羽292号	秋田県農試	偏穂数	77	稀短	黄白	難	7.28	9.5	普通	やや強	中	中	22.0	3	5	穂数はアキヒカリより確保しやすい。稈は太いが耐倒伏性は不充分、耐肥性も高い方ではない。収量は穂数依存度が大きい。葉、穂いもち病、共に強い。	—
萌えみのり ※3	南海128号×はえぬき	東北農業研究センター	偏穂数	66	やや少短	黄白	難	7.30	9.5	普通	中	強	強	23.2	4	—	葉いもち抵抗性はやや弱、白葉枯病抵抗性は中である。直播において倒伏性に強く多収で、移植・直播どちらでも「ひとめぼれ」並の良食味である。食味の低下を防ぐため多肥栽培は避ける。	2009年7月31日より25年間
つきあかり ※3	(かばしこ×みずほの輝き)×北陸208号	農研機構	偏穂重	74	稀	白	難	7.29	9.6	多肥	中	やや強	やや強	23.9	5	—	腹白が出やすく、縞葉枯病に罹病性である。白葉枯病にやや弱い。種子の休眠が深いので十分浸種する。あきたこまちより約10%多収。	2020年2月21日より25年間
ひとめぼれ	コシヒカリ×初星	宮城県古川農試	偏穂数	76	稀短	黄白	難	7.31	9.7	普通	中	中	極強	22.5	4	5	耐冷性。良食味。種子の休眠性が強いので浸種を十分にとる。	—
ミルキークイーン	コシヒカリの ※1 MNU処理	農研機構	中間	90	少短	白	難	8.5	9.15	少肥	やや弱	極弱	極強	21.5	5	15	栽培上の注意は、コシヒカリと同様。 低アミロース米。白葉枯病圃場抵抗性は弱。	—
キヌヒカリ	(収2800号×北陸100号)×ナゴユタカ	北陸農試	中間	77	無	黄白	やや易	8.7	9.15	やや多肥	やや強	強	—	22.0	4	2	縞葉枯病には弱いので常発地帯は避ける。穂発芽性は日本晴並みであるので適期刈取に留意する。心白、乳白に注意。倒伏には強い。	—
コシヒカリ	農林22号×農林1号	福井県農試	中間	90	少短	白	難	8.7	9.16	少肥	やや弱	極弱	極強	22.5	5	15	葉色が淡く稈が伸びやすいので早い穂肥は控え、葉色を十分にさます。穂いもち病に注意。播種前の催芽を充分に行い発芽をそろえる。	—
ヒカリ新世紀	{(関東79号×十石)短桿F4選抜×コシヒカリ}×コシヒカリ7回戻し交配	鳥取大学農学部 富田 因則教授	偏穂数	72	—	—	難	8.8	9.16	多肥	やや弱	強	強	22.9	4	—	多肥・密植栽培により、コシヒカリ並の良食味の多収穫が可能。コシヒカリの適作地全域で早期～普通期栽培が可能。白葉枯病抵抗性・カラバエ抵抗性は「中」である。	2004年11月8日より20年間
どんとこい	キヌヒカリ×北陸120号	北陸農試	中間	76	無	黄白	中	8.10	9.23	普通	やや強	強	弱	22.0	3	2	山間部での栽培には注意。耐冷性が弱。穂発芽性が中であるので刈り遅れに注意する。	—
てんこもり ※3	富山36号×と系1000	富山農総技センター	偏穂数	73	少短	黄白	難	8.12	9.23	普通	中	強	強	22.9	4	—	直播栽培でも多収。紋枯病にやや弱い為、適期防除に努める。 高温登熟やや強い。2016年富山産で特Aランク獲得。	2009年10月30日より25年間
あさひの夢	あいちのかおり×(月の光×愛知65号)	愛知県農試	偏穂重	83	極稀短	黄白	やや難	8.10	9.24	多肥	やや強	強	—	22.5	3	2	稈が強く、倒伏に強い。	—
あきだわら ※3	ミレニシキ×イクヒカリ	農研機構	偏穂重	80	極短	黄白	やや難	8.16	9.27	多肥	やや弱	強	—	21.3	4	2	基肥はコシヒカリより窒素(N)成分で、3～5割増しで多収となる。栽植密度は穂数が少ないので、やや密植で多収となる。いもち病と縞葉枯病に弱いので、適正に防除を行う。	2011年3月18日より25年間

※1 MNU処理 育種法の一つ。 化学物質MNU(メチルニトロソウレア)による突然変異を育種に利用したもの。
※3 登録品種又は、登録出願中品種で、改正種苗法経過措置による輸出先国の制限に係る届出品種

※2 食味は参考程度とお考えください。

うるちの部

品種名	交配 母×父	育成地	草型	稈長cm	芒 多、少	稲先色	穂発芽性	出穂期月日	成熟期月日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	玄米千粒重	食※2 5段階味	1回目の幼穂長肥mm	特性及び栽培上の注意	品種登録年月日 育成者権存続期間
きぬむすめ※3	キヌヒカリ×祭り晴	九州沖縄農研センター	中間	84	稀短	黄白	やや易	8.17	10.3	普通	中	中	弱	21.4	4	—	葉いもち抵抗性は中、白葉枯病抵抗性はやや弱である。外観品質が良く、食味はコシヒカリ並である。苗が「キヌヒカリ」並に伸びやすいので、育苗時は徒長苗に注意する。	2008年3月17日より25年間
ヒノヒカリ	黄金晴×コシヒカリ	宮崎総農試	偏穂重	85	稀短	白	難	8.24	10.16	普通	弱	中	やや弱	22.0	3	2	成熟期が遅い。害虫防除を徹底。多肥により倒伏のおそれあり注意。播種・田植時期早く行う。	—
にこまる※3	きぬむすめ×北陸174号	九州沖縄農研センター	偏穂重	82	稀短	黄白	中	8.27	10.17	多肥	やや弱	中	—	23.1	4	—	収量はヒノヒカリを5％程度上回る。白米のタンパク含量が低く、良食味。苗・移植後の草丈の伸長が大きいので初期生育を抑え気味に管理する。	2008年3月17日より25年間

もちの部

品種名	交配 母×父	育成地	草型	稈長cm	芒 多、少	稲先色	穂発芽性	出穂期月日	成熟期月日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	玄米千粒重	食※2 5段階味	1回目の幼穂長肥mm	特性及び栽培上の注意	品種登録年月日 育成者権存続期間
峰の雪もち	奥羽302号×ヒメノモチ	北陸農試	偏穂重	68	少短	淡紅褐	易	7.26	8.31	多肥	弱	強	中	23.5	2	2	極短稈で倒伏性に強い。いもち病は弱い。	—
とみちから	滋賀羽二重糯×富山早生	富山県農試	偏穂重	73	稀短	白	中	7.26	8.31	多肥	やや強	強	—	21.0	3	2	短強稈で耐肥性がある。少肥栽培では収量が落ちる。刈り遅れしない。紋枯病、籾割れに注意。	—
ヒメノモチ	大系227×こがねもち	東北農試	偏穂重	77	稀短	白	やや易	7.29	9.5	普通	中	やや弱	中	22.0	3	8	稈は強くないので多肥栽培をさける。いもち病に弱いので注意する。ハゼは良い。籾割れに注意。	—
ヒデコモチ	大系糯1076×ふ系72号	東北農試大曲支場	偏穂重	72	無白	白	中	7.29	9.5	やや多肥	中	強	やや弱	20.5	3	5	穂数が取りにくいので、やや多肥栽培する。耐冷性に弱い。品質はヒメノモチと同等以上。いもち病にやや弱い。	—
こがねもち	信濃糯3号×農林17号	新潟県農試	偏穂重	89	稀短	淡褐	易	8.3	9.11	普通	弱	極弱	—	21.3	4	10	長稈で稈はもろく倒伏しやすい。早い穂肥は控える。紋枯病、いもち病、穂発芽に注意。	—
カグラモチ	F3－249×平六糯	埼玉農事試	穂重	90	少短	紅褐	易	8.5	9.12	普通	やや弱	中	やや強	20.5	3	5	長稈のため早い穂肥は施用しない。穂いもちに弱く、穂発芽しやすい。	—
マンゲツモチ	F3－249×農林糯45号	埼玉農事試	中間	90	稀短	淡紅褐	中	8.13	9.27	普通	中	やや弱	—	21.0	2	5	稈は「こがねもち」並みで弱いので穂肥は早めない。いもち病に注意。Cレースに注意。秋落ちに弱い。	—
新大正糯	大正糯×農林32号	富山県農試	中間	93	稀短	紫褐	易	8.16	10.1	やや少肥	弱	極弱	—	19.5	5	15	葉色はやや淡く、長稈であるので施肥、水管理に注意して倒伏防止に努める。後期肥切れによる穂重低下になりやすい。いもち病、穂発芽に注意。	—

注意事項

1. 本表は稚苗の5月10日植えでの生育状況と品種比較田との成績により想定しました。
2. 幼穂形成期、出穂期は、田植えの時期、肥料の効かせ方、土壌条件、その年の天候によって多少の違いがありますから、おおよその目安として下さい。

施肥注意事項

❶基肥量は普通で塩加燐安264（N－12％、P－16％、K－14％）を30kg／10aとし、少肥は5kg減、多肥は5kg増として施用して下さい。これ以外の肥料を使用する場合は窒素成分で換算してください。
❷穂肥は登熟、千粒重を高めるために施用するので、穂肥を施用する前に中干しを行いイネの姿勢を良くしてください。
❸穂肥の施用時期　肥料の効かせ方は、土壌条件、天候により多少の違いがありますので、幼穂の長さが上記になったら施用して下さい。
2回目は1回目より7～10日後に施用して下さい。